

報道各位

彫刻の森美術館 開館55周年記念



舟越桂 森へ行く日

Katsura Funakoshi: The Day I Go to the Forest

2024年7月26日〔金〕－11月4日〔月・休〕

彫刻の森美術館 本館ギャラリー



《樹の水の音》2019年 楠に彩色、大理石 93×46.5×31cm
西村画廊蔵 Photo: 今井智己 © Katsura Funakoshi Courtesy of Nishimura Gallery
※この写真は所蔵者の許可を得て撮影しています。実際の展示風景と異なります。

彫刻の森美術館（所在地：神奈川県箱根町）は、**開館55周年を記念して、彫刻家 舟越桂（1951～2024年）の展覧会を2024年7月26日（金）～11月4日（月・休）の会期で開催します。**

自然の中で人々と芸術家が交流する場として誕生した日本で初めての野外彫刻美術館である『彫刻の森美術館』。作品は芸術家の言葉であると考える当館が、周年を記念した展覧会にと2023年3月に舟越桂氏に依頼したことから本展の企画が始まり準備が進められてきましたが、2024年3月29日 舟越桂氏が逝去されました。本展は、最期までこの展覧会の実現を望み、励んでくださった作家本人の意思と、ご遺族の意向を尊重し開催されます。

～森へ行く日～

「遠い目の人がいる。
自分の中を見つめているような遠い目をしている人がときどきいる。
もっとも遠いものとは、自分自身なのかもしれない。
世界を知ることとは、自分自身を知ることという一節を思い出す。
私が感じている人間の姿を代表し、象徴してくれるような個人に出会った時、
私はその人の像を作りたいと思う。」（創作メモより）

遠くを見つめるまなざしを持った静かな佇まいの人物像で知られる彫刻家 舟越桂。
生涯を通じて人間とは何かを問い続けた彫刻家の作品の変遷とその創作の源となる視線に迫ります。

◆報道関係者お問い合わせ先◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121

「舟越桂 森へ行く日」PR事務局：辻井・福間・武藤

TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

katsurafunakoshi@hakone-oam.or.jp

聖母子像や性別を感じさせない静謐な空気をまとった人物像は、その後、人間という存在の大きさや不思議さを象徴する山のようなイメージの人物像や、「祈り」の思いや行為に人間の姿を与えたという考えに至った「水に映る月蝕」（2004年）、そして東日本大震災がきっかけとなって制作された「海にとどく手」（2016年）、さらに両性具有の身体と長い耳を持った、人間を見つめる存在としての「スフィンクス」へ辿り着きます。一貫して人間の存在をテーマにしなが、様々に変容を遂げる作品を舟越は自ら「心象人物」と名付けました。

「手と目と頭を使って人間の像を作ることで、思考だけでの理解を越えて、人間を把握することに変わっていかないだろう
か。その時間のつかかさねで、私も人間について考えていると思いたい。」

――『言葉の降る森』角川書店

具体的には目に見えない、しかし現実人間がその回りに抱える問題、祈りや思いなどに人間の姿を与えながら、人間について考えることで舟越は「人は皆それぞれ、たった一度の人生を生きていく初めての存在なのだ」ということを証明するための物語を紡ぎ出そうとしていたのではないのでしょうか。

本展が、自分と出会う場として、自分と向き合う時間として、皆様に届くことを願っております。



主な略歴・受賞歴・展覧会歴

舟越 桂 katsura Funakoshi

略歴

1951 年 岩手県盛岡市生まれ
1975 年 東京造形大学彫刻科卒業
1977 年 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
1986-87 年 文化庁芸術家在外研修員としてロンドンに滞在
2024年 3月29日没 享年72歳

受賞歴

1995 年 第26 回中原悌二郎賞優秀賞受賞
1997 年 第18 回平櫛田中賞受賞
2011 年 紫綬褒章受賞

展覧会歴

1988 年 「第43 回ヴェネチア・ビエンナーレ」イタリア
1992 年 「ドクメンタIX」カッセル、ドイツ
2003-04 年 「舟越桂Works: 1980-2003」
東京都現代美術館/栃木県立美術館/北海道立旭川美術館/高松市美術館/
岩手県立美術館/広島市現代美術館
2008 年 「舟越桂 夏の邸宅 アール・デコ空間と彫刻、ドローイング、版画」
東京都庭園美術館
2012年 「開館25周年記念展 舟越桂2012 永遠をみるひと」メナード美術館
2015-16 年 「舟越桂 私の中的スフィンクス」
兵庫県立美術館/群馬県立館林美術館/三重県立美術館 /新潟市美術館
2020年 「舟越桂 私の中的にある泉」渋谷区立松濤美術館



・展示室1　－ 僕が気に入っている －

舟越のまわりは、いつも自身が気に入っているものに囲まれています。そしてそこには必ず舟越の手ざわりの跡が残されています。それはアトリエであっても、どこであっても変わることがありませんでした。

代表作のひとつ《妻の肖像》（1979-80年）は、舟越のアトリエに大切に置かれています。展示室1の前半部分では、日々の創作活動を垣間みれるデッサンやメモ、舟越が実際の制作に使っていた手製の作業台やデッサン用の一本足のイスなどが展示されます。

展示室1の後半部分では、病室の窓から見える雲がきっかけとなって生まれた「立てかけ風景画」を展示します。厚紙の裏に鉛筆で描かれた幻想的な風景画。舟越はこれを繰り返し描いては食事に出されるヨーグルトのカップで作った台に立てかけ眺めていました。

・展示室2　－ 人間とは何か －

「日々、世界で起こる戦争や紛争には怒りや憤りを感じます。しかし人にはそれぞれ役割があり、自分は怒りや悲しみをぶちまけるのではなく、人間の存在を肯定していきたいのです。」と語る舟越は人々が抱える孤独や矛盾、二面性にも目を向けます。

展示室2は、「人は山ほどに大きな存在なのだ」と感じた体験がもとになって生まれた彫刻《山と水の間に》（1998年）、「相反する自分」という考えから生まれた胴体が後ろ前の人物や、支え合って生きる人間の姿を描いたドローイング《雪の上の影》（2002年）などで構成されています。

・展示室3　－ 心象人物 －

一貫して人間の存在をテーマにしながら様々に変容を遂げる作品を舟越は自ら「心象人物」と名付けました。最初のイメージから言葉が見つからないままに制作を始めた《水に映る月蝕》（2004年）について、舟越はのちに“浮く”というイメージを見出し「それは現実から少し解き放たれることであり、そうであればそれは“祈り”の思いや行為に姿を与えたのかもしれない。」と語っています。

展示室3では、東日本大震災がきっかけとなって制作された《海にとどく手》（2016年）、人間のすることを丘の上から見続けているスフィンクスをイメージした《戦争を見るスフィンクスⅡ》（2006年）などで構成されます。「世界を知るとは？」というスフィンクスの問いかけに「自分自身を知ること」と少女が答える場面に感銘を受けた舟越は、両性具有の身体と長い耳を持った、人間を見続ける存在としての「スフィンクス」を題材にした作品を多く残しました。

・展示室4　－ 『おもちゃのいいわけ』のための部屋 －

1997年に『おもちゃのいいわけ』という一冊の本が生まれました。舟越が家族のために作ったたくさんのおもちゃ達が、姉・末盛千枝子氏によって出版されたものです。長く愛され続けてきた一冊が、本展覧会にあわせて27年ぶりに増補新版として刊行されます。展示室4は、刊行を記念して「木っ端の家」や「クラシックカー」といった往年のおもちゃ達とともに、新たに本に加わるものの中から「立ったまま寝ないの！ピノッキオ！！」（2007年）、「あの頃のボールをうら返した。」（2019年）などで構成されます。

そして、入院中も絶えず描いていた創作のためのイメージデッサン。創作の源ともいえるその貴重な内容を舟越が自ら語った映像で紹介します。



《樹の水の音》
2019年
楠に彩色、大理石
93×46.5×31cm
西村画廊蔵
Photo: 岡野 圭
© Katsura Funakoshi Courtesy of
Nishimura Gallery



《海にとどく手》
2016年
楠に彩色、大理石、雑木
193×112×89cm
個人蔵
Photo: 齊藤さだむ
© Katsura Funakoshi Courtesy of
Nishimura Gallery



《遠い手のスフィンクス》
2006年
楠に彩色、大理石、革、鉄
110×90×40.5 cm
高橋龍太郎コレクション蔵
Photo: 内田芳孝
© Katsura Funakoshi Courtesy of
Nishimura Gallery



《DR1002》
2008年
紙にアクリル
54.5 x 39.5 cm
J. Suzuki蔵
© Katsura Funakoshi Courtesy of
Nishimura Gallery

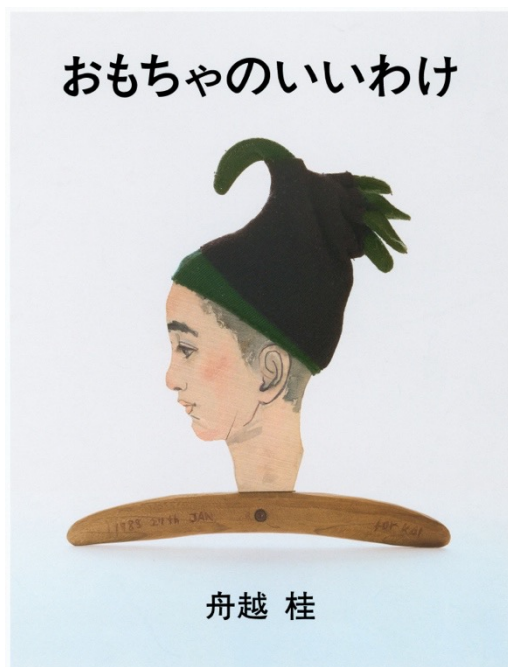


《「私は街を飛ぶ」のためのドローイング》
2022年
紙に鉛筆、オイルスティック、オイルパステル
41×33cm
Photo: 後藤 渉



《あの頃のボールをうら返した。》
2019年
革、糸、楠、パネ、水彩、鉛筆
67×47×42cm
Photo: 今井智己

〔増補新版〕 おもちゃのいいわけ 舟越桂著（現代企画室刊）



2024年7月下旬刊行予定 定価2500円＋税
A4変形68頁 ISBN 978-4-7738-2404-9

舟越桂が家族のために木っ端で制作したおもちゃを集め、一冊の絵本のような作品集に仕上げた名作『おもちゃのいいわけ』を、「舟越桂 森へ行く日」展を記念して復刊します。それぞれのおもちゃにまつわる物語がエッセイとして綴られ、家族を思う筆者の心情がしみじみと伝わってくる味わい深い一冊です。1997年に刊行されたすえりブックス版の完全復刻に加え、著者がとくに気に入っている4つの作品と、制作にまつわるエピソードを収録し、増補新版として出版します。

本展では「『おもちゃのいいわけ』のための部屋」として1997年出版時の作品5点と新たに掲載される作品などを展示します。

特別な思いを込めてつくる。それはおもちゃであっても作品をつくる感覚と何ら変わることはない。これ以上の贈り物はあるでしょうか。桂さん、ありがとう。－三沢厚彦（彫刻家）

この本が復刊されるとは何と嬉しいことでしょうか。しかもまるで置き土産のように幾つかの作品と桂の言葉も添えて。
－末盛千枝子（絵本編集者）

表紙を飾る、横顔をモチーフにしたハンガーは有名な作品ですが、そのほかにも、家族をかたどった木っ端の人形やかぶられなかった帽子、《立ったまま寝ないの！ピノッキオ！！》など、20あまりの作品が収録されています。

家族にはやく見せたくてワクワクする様子や試行錯誤する姿など、その時々著者の制作風景が目浮かぶようなエッセイが添えられた、心温まる一冊です。



《立ったまま寝ないの！ピノッキオ！！》
2007年
楠に彩色、雑木、バネ
61×24×21cm
作家蔵
Photo: 今井智己

立ったまま寝ないの！
ピノッキオ！！



《立ったまま寝ないの！ピノッキオ！！》
2007年
楠に彩色、雑木、バネ
61×24×21cm
作家蔵
Photo: 今井智己

開催概要

- 【展覧会名】 彫刻の森美術館 開館55周年記念「舟越桂 森へ行く日」
- 【アーティスト】 舟越桂
- 【会 期】 2024 年7 月26 日（金）～ 11 月4 日（月・休）
- 【会 場】 彫刻の森美術館 本館ギャラリー
- 【開館時間】 9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）
- 【料 金】 美術館入館料（下記ご参照ください）
- 【休 館 日】 なし（年中無休）
- 【主 催】 公益財団法人彫刻の森芸術文化財団
- 【協 力】 西村画廊、三菱地所株式会社、現代企画室、メナード美術館、アンドーギャラリー、
京都 ギャラリー白川、高橋龍太郎コレクション、総合舞台
- 【出品点数】 立体22点、平面35点、資料展示
- 【美術館公式ホームページ】 <https://www.hakone-oam.or.jp>
- 【特設サイト】 <https://www.hakone-oam.or.jp/specials/2024/katsurafunakoshi/>

◆彫刻の森美術館について

四季折々の雄大な自然が楽しめる箱根。彫刻の森美術館は、その自然を生かして 1969 年に開館した、国内で初めての野外美術館です。緑豊かな屋外展示場に、近・現代を代表する彫刻家の名作約120点が常設展示されています。また、ピカソ館をはじめとする室内展示場や子どもたちが体験できる作品、天然温泉の足湯（2024年7月27日 リニューアル）もあり、心豊かな憩いのひとときを過ごすことができます。

所在地 : 〒 250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121

Tel : 0460-82-1161

Fax : 0460-82-1169

アクセス : 詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。
電車 | 箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分
車 | 東名高速道路厚木IC－小田原厚木道路－西湘バイパス箱根口ICより約25分
または東名高速道路御殿場ICより約5分

入館料 : 大人 2,000 円、大学・高校生 1,600 円、中学・小学生 800 円、未就学児 無料
※Webチケット割引、団体割引、障害者割引あり ※学生の方は証明書をご提示ください

広報用画像

《樹の水の音》をメインビジュアルとしてご使用ください。
使用の際には、画像クレジットを記載ください。文字載せやトリミングはご遠慮ください。

オンラインプレスリリース・広報用データ
ダウンロードシステム QRコード

■【オンラインプレスリリース・広報用データ ダウンロードシステム】をご利用いただけます。

<https://www.artpr.jp/hakone-oam/katsurafunakoshi2024>

■プレゼント用チケット（5組10名様）をご用意します。チケットは掲載確認後に発送します。



イベント

ギャラリートーク

開催日：8月1日（木）～8月4日（日）

時 間：11:30～12:00

集合場所：本館ギャラリー1階

定員：先着30名 参加費：無料（当日9:00より、本館インフォメーションで整理券を配布）

開催中の展覧会「舟越桂 森へ行く日」をより深く楽しんでいただけるよう、鑑賞者と展示室を巡りながら、作品や鑑賞ポイントを担当学芸員が解説します。

プレス内覧会

◎プレス会 開催概要

日時：2024年7月25日（木）13:00～

場所：彫刻の森美術館 本館ギャラリー

主催：彫刻の森美術館

◎スケジュール

【プレス会】

12:00 プレス会受付開始（場所：彫刻の森美術館入口）

12:50 プレス会 参加者集合（場所：本館ギャラリー1階）

13:00 担当学芸員より趣旨説明

13:05 会場内を移動しながら解説

13:40 撮影

13:45 終了

【内覧会】

14:00 主催者よりご挨拶

舟越氏ゆかりの方や作家数名よりコメント

15:00 終演（17:00まで展覧会場をご覧ください）

【トークショー】

15:10 「名作コレクション＋舟越桂選」出品作家によるトークショー（場所：アートホール）

16:00 終演（終了後、撮影時間を設ける予定です）

お申込みはこちら

【プレス会 申し込みフォーム】

https://www.artpr.jp/hakone-oam/event_preview/entry/383/388

※切：7月22日（月）17:00

名作コレクション + 舟越桂選

Masterpiece Collection and

Katsura Funakoshi Selection

彫刻の森美術館は、日本で初めての野外美術館として1969年に開館し、今年で55年を迎えました。これまでに収集された作品は、2,000点余りにおよびます。

今回は、そのコレクションの中から近・現代彫刻の優品を選び、時代の流れに沿って展示します。また、彫刻の森美術館開館55周年記念「舟越桂 森へ行く日」（本館ギャラリー、2024年7月26日～11月4日）の関連として、舟越桂とゆかりのある現代作家の作品を選りすぐり展示します。現代へと続く彫刻の展望をみる機会になりますと幸いです。

「みなさんそれぞれに、僕には思いつかない姿や形の作品を提示してきています。

それがどんなことから来ているのかが気になる作家です。そんなことを考えて選ばせてもらいました。」 舟越 桂

【展覧会名】 「彫刻の森美術館 名作コレクション + 舟越桂選」

【会 期】 2024年7月6日（土）～12月1日（日）

【会 場】 彫刻の森美術館 アートホール

【開館時間】 9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）

【料 金】 美術館入館料

【休 館 日】 なし（年中無休）

【主 催】 公益財団法人彫刻の森芸術文化財団

【協 力】 西村画廊、小山登美夫ギャラリー、Sandwich Inc.、シュウゴアーツ

【出品点数】 所蔵作品21点（作家14名）、舟越桂選 出品作品7点（作家5名）

【美術館公式ホームページ】 <https://www.hakone-oam.or.jp>

【特設サイト】 https://www.hakone-oam.or.jp/specials/2024/katsurafunakoshi_sen/

「彫刻の森美術館 名作コレクション」の展示構成

メダルド・ロツィ、ボッチオーニ、萩原守衛、朝倉文夫など近代彫刻の名品や、ブランクーシ、ジャコメッティ、舟越保武、清水九兵衛といった20世紀を代表する彫刻家の作品をご覧ください。

出品作家：

メダルド・ロツィ、萩原守衛、コンスタンティン・ブランクーシ、アメデオ・モディリアーニ、アンリ・ローランス、ウンベルト・ボッチオーニ、アルベルト・ジャコメッティ、舟越保武、清水九兵衛ほか

「+舟越桂選」の展示構成

本展のために舟越桂氏から選出していただいた現代作家5名の作品を展示します。

長年の友人である三木俊治氏、東京造形大学で共に教鞭を執った仲間の保井智貴氏、丸の内ストリートギャラリーで共に展示を行った名和晃平氏、松濤美術館で開催した「アニマルハウス」で競作をした三沢厚彦氏と杉戸洋氏の作品をご紹介します。また舟越、三沢、杉戸、画家小林正人4氏が共同制作した「オカピのいる場所」を特別展示します。

出品作家：

三木俊治、三沢厚彦、杉戸 洋、名和晃平、保井智貴

◆報道関係者お問い合わせ先◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121

「舟越桂 森へ行く日」PR事務局：辻井・福岡・武藤

TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

katsurafunakoshi@hakone-oam.or.jp